

科目ナンバリング		U-LAS00 10019 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学論II Philosophy and History of Science II					担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 青山 拓央		
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)		哲学・思想(基礎)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
「科学論I」と同様、ある具体的なテーマに関して科学が何を見いだしてきたか、さらに哲学では同テーマをどのように扱ってきたかを解説し、その比較を通じて科学の特性を理解していきます（担当教員の専門は哲学）。本授業では「心と時間」との関係を中心的なテーマとして掲げ、さまざまな時代・地域の哲学研究や、心理学・物理学・脳神経科学などの知見を参照しつつ、上記の課題に取り組みます。「今」という時間の特異性や、記憶のメカニズム、そして、それらと「心」との関わりを確認していくことを通じて、科学論の一つの在りかたを提示します。											
[到達目標]											
「心と時間」の科学と哲学をめぐる諸研究を知り、その論点を学ぶとともに、科学的研究の特性を、歴史をふまえて理解できるようになる。											
[授業計画と内容]											
下記の5つのテーマに沿って、「科学とは何か」「心と時間との関係は、いかなるものか」を考えます（授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります）。 1．ガイダンス：諸学問の特性について（第1週） 2．「心と時間」の哲学における諸問題#1（第2週～第5週） （デネットやチャーマーズなどの議論を紹介。） 3．時間と自然科学との関係について（第6週～第9週） 4．「心と時間」の哲学における諸問題#2（第10週～第13週） （近年の多様な研究成果を紹介。） 5．総括と、担当教員自身の見解について（第14週） 第16週：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
レポートにて成績を評価します。採点基準はやや厳しめで、講義内容を十分に理解しているかと、自分の考えを論理的に説明しているかを中心的に評価します。											
[教科書]											
使用しない											
----- 科学論II(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

科学論II(2)

[参考書等]

(参考書)

青山拓央 『心にとって時間とは何か』 (講談社現代新書) ISBN:978-4-06-518022-8

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。

[その他(オフィスアワー等)]

教室収容人数に応じて、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。

[主要授業科目(学部・学科名)]

総合人間学部